

B - 2 指導法の工夫

3年生は第 期時間割にはいり週3時間（内1回は2時間続き授業）で時間割が組まれている。授業の展開として1時間の時は基本的技能練習を中心に、2時間続き授業の時はゲーム中心という設定で授業を展開することにした。また、3年生ともなると男女のボールスピードに違いがあり、力の差はみられるものの、卓球はネット型スポーツであることから、男女が互いに協力し合うことによる効果も生かしながら特に男女共習の指導を進め指導を進めることにした。指導の重点はサーブやストローク等の基本的技能の習得はもちろん、特にダブルスゲームにより互いの協力で勝利を目指すことにこだわりを持たせることにした。「どうしたら勝てるのか」をペアで、あるいは所属するグループ内で話し合わせ、考えさせる学習活動の展開から思考力を高めさせたい。＜自己評価・相互評価＞他にも学習目標達成のための糸口を見い出す場の工夫を設定していく。指導形態は一斉指導とグループ指導の2形態で行い、なかに個人指導を入れていく。

また下記の点は「学びの姿勢」として生徒に具体的に示している点である。

考える

自分の能力の現状を考える。背伸びせずに正直に自分でチェック。

自分がまずどのレベルまで達成すべきかを考える。これが「目標」

「目標」に達成するにはどのようにすればよいかを考える。これは「計画」

「くふうする」

効果的な練習方法を考え、探し出そうとする。「求める姿勢」

グループ学習をする意味を理解し、「教え合い」の中から糸口を見つける。

先生に対し積極的に質問する。これも学習のくふう。

種目名「 」

気づき & 課題解決用紙

年 組 名前

相互評価の結果から気づいたこと、新たな課題の発見、課題解決のための手段・解決法などについて授業の最後に記入していく。このことは自己の学習を深めることはもちろん、思考力・判断力の向上に結びついていきます。

月・日	気づいたこと・新たな課題	課題解決のための手段・解決法
/		
/		
/		
/		
/		
/		

「探求心あふれる姿勢は将来の宝」

卓球相互評価表

観点項目 内容	評 価 内 容							
技能・知識理解	サーブ	ボールをひらいた手のひらから16cm以上あげ(ボールを回転させない),落ちてくる時に打つことができる。 ねらったところに打つことができる。						
	ストローク	レシーブすることができる。 ラケットをかぶせて打つことができる。 バックハンドで打つことができる。 いろいろなところに打ち分けることができる。 チャンスにスマッシュを決めることができる。 ボールに回転をかけて打つことができる。						
	ゲーム	攻め、守りの隊形の切りかえができる。 フットワークを生かしよいポジション取りができる。 相手のいないところや、苦手なところをねらうことができる。 ルールや審判法,ゲームの方法などについて理解している。						
思考・判断	相互評価から自己の現状を把握し,新たな課題を見つけ出す。 相互評価から課題解決の方法を見つけだす。 課題解決のために工夫として教師や仲間のアドバイスを求める。							
関心・意欲・態度	仲間と協力し積極的に取り組んでいる。 学ぶ姿勢を理解し,向上心を持って取り組んでいる。 ウォーミングアップにしっかり取り組む,練習の際周囲の安全に注意できるなど安全に行う態度が備わっている。							

「学ぶ姿勢」 ~ 考え くふうし楽しむ ~